

207 中央大学記事 (懸賞討論会・講師の変更・研究科と外国

語専修科・独逸語予科・語学会)

〔『法学新報』第十六卷二(一八二)号

明治三十九年二月一日〕

○中央大学記事

○懸賞討論会 来る三日午前一時より記念講堂に於て伊藤(佛治)講師を会長として牧野(英二)講師の出題にかゝる左掲の問題に付き討論会を開催し終りに牧野講師は本問に対する

意見を説述せらるる筈なり

犯罪人甲者あり乙者を教唆して自己を藏匿せしめたり甲乙の処分如何

○講師の変更　西野法学士は官命を奉して英国に渡航せられ吉野法学士は袁世凱氏の招聘に応じて清国に加納理学士は第二高等学校に赴任せられたるに依り財政学は法学士小林丑三郎氏「ジード」経済学は法学博士福田徳三氏化学は理学士近藤清次郎氏代りて之を担任せられたり

○研究科と外国語専修科　新年に入りて両科の人員増加しつつありて一方は午後五時より七時まで他方は七時より九時までなれば兼修頗る便宜にして各受験者も漸く準備に著手を要するの時期に達し殊に受験科にありては新に福田博士も加はられたれば漸次盛況に赴くへしと

○独逸語予科　大学予科独逸語科にありては第一高等学校教授独逸人リイゲルスベルグ氏は新に独逸語の実地演習を担任せられ又第一高等学校教授福岡博氏は独逸語の組織及び文法の講義を新に開講せらるる等漸く其面目を一新したり

○語学会　本学予科の創設と共に語学の実際の練習を主旨として起されたる語学会は逐年盛大となり本月は例会開催の期なりしか主任講師廣井辰太郎氏は不図病に罹りて入院せられ且つ予科の創設に付き指導の任に当り専ら尽力せられたる文学博士高楠順次郎氏は久しく洋行中なりしか任満ち愈々本月を以て帰朝せらるる筈なれば旁々来月に延期し盛大に挙行の筈なり